

# 2023年度研修旅行 奄美大島コース 実践報告

影 山 彰 (理 科)

## 1. はじめに

本校では60期生の2年次、2023年度（2024年1月）から研修旅行が5コース制となり、生徒たちは沖縄、東北、韓国、マレーシア、奄美大島のうちから1つを選択して参加する形となった。筆者は奄美大島コースの引率を担当したので、事前学習から現地研修までの実践報告をさせていただく。なお、今回の研修旅行、奄美大島コースの行程を検討するにあたり、2022年度には29名の生徒で奄美大島研修を先行で実施している。2022年度の先行実施の実践報告は昨年度の本校の紀要に執筆させていただいている。

現地研修日程：2024年1月10日(水)～13日(土)

引率：谷内田一郎(数学科)・大館瑞城(国語科)

垣塚菜生(外国語科)・影山 彰(理科)

参加生徒：74名(76名が参加予定だったが、体調不良で2名が欠席)

## 2. 奄美大島の背景

奄美大島を含む「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島（奄美・沖縄）」は、大陸などとの分離、近隣島しょとの分離・結合を繰り返して形成された独特の地史を背景に、世界的にも貴重な固有種や、絶滅のおそれのある動植物の生育地として非常に重要な地域であることから、世界自然遺産候補地として推

薦され、2021年7月26日に世界自然遺産として正式に登録された。<sup>1</sup>

この地域の世界自然遺産登録が認められた理由として、「生物多様性」がある。奄美大島の広さは国土の面積の0.2%に満たないが、島内で国内全体の生物種の約13%が確認されている。

このように、固有種の宝庫であるがゆえに世界自然遺産登録が認められたものの、奄美大島は多くの問題を抱えている。以下に、奄美大島が抱えている問題の一例を示す。

- ・観光客の増加により、奄美大島の地域住民の生活や自然環境に悪影響が及ぼされる「オーバーツーリズム」が発生していること。
- ・観光客の増加により、奄美大島の固有種であるアマミノクロウサギ等の動物が車両に轢かれて死ぬ「ロードキル」が増えていること。
- ・島内に大学がなく、雇用も少ないために若者が島から流出し、大島紬などを始めとする奄美大島の伝統文化の継承が難しくなっていること。

今回、生徒たちは事前学習でこれらの問題について調査し、現地研修を通して問題の解決策について自分たちで考えることができるように探究学習を計画した。

<sup>1</sup> webサイト「のんびり奄美」より引用

<https://www.amami-tourism.org/natural-heritage/>

### 3. 事前学習

本校の60期生は土曜日の2時間目に総合的な探究の時間が設定されており、この時間を事前学習にあてた。60期生の中で、奄美大島の研修リーダーコースを選択した25名が事前学習に取り組んだ。奄美大島コースはメインテーマを「自然環境保全」に設定し、生徒に学習をさせることにした。事前学習は次のような日程で実施した。

日 程	事前学習の内容
4月15日	自己紹介、書籍紹介など
4月22日	奄美大島に関するキーワード調査、グループ分け
5月13日	オンライン学習の準備、キーワード動画作成①
5月20日	キーワード動画作成②
5月27日	オンライン学習の役割決め・キーワード動画作成③
6月 3日	大雨で休校
6月10日	オンライン学習（福山様）を実施
6月17日	6月24日の情報共有会の準備、キーワード動画作成④
6月24日	情報共有会
7月 1日	夏休みの宿題（個人探究実践）の準備
夏休み	課題（個人探究実践）に取り組む
9月 2日	夏休みの宿題・個人探究実践の発表会
9月 9日	現地研修に向けてのグループ分けや、役割分担など
9月30日	奄美大島に関する問いやアクションプランについて考える①
10月14日	奄美大島に関する問いやアクションプランについて考える②
10月28日	本校卒業生のお話を聞く会を実施
11月 1日	生徒たちでホテルの部屋割を決める
11月 4日	奄美大島に関する問いやアクションプランについて考える③
11月11日	奄美大島に関する問いやアクションプランについて考える④
11月18日	奄美大島に関する問いやアクションプランについて考える⑤
11月22日	奄美大島に関する問いやアクションプランについて考える⑥
11月25日	奄美大島に関する問いやアクションプランについて考える⑦
11月29日	事前学習まとめスライドの作成
12月 2日	事前学習まとめスライドの作成②および共有会

## 第1回 2023年4月15日(土)「自己紹介、書籍紹介など」

全生徒に対して、「春休み中に奄美大島関連の書籍を1冊読んでおくこと。」という課題を出していたので、生徒たちは各自が春休みに読んだ書籍についてのまとめを共有しながら、自己紹介をした。

また、奄美大島のPR動画「命むき出し」糸編<sup>2</sup>の視聴をした。

<sup>2</sup> <https://www.youtube.com/watch?v=8ngz10SUdo4>



第1回事前学習（2023年4月15日）の様子

## 第2回 2023年4月22日(土)「奄美大島に関するキーワード調査、グループ分け」

研修リーダーの生徒25名に奄美大島に関する20のキーワードを提示し、1人が1つのキーワードを調べる課題を出した。生徒が春休みに読んできた書籍の内容をもとにして、関連しそうなキーワードを教員が振り分け、観光行政、自然保護、文化、その他の4つのチームを作った。(生徒は25名いたので、一部生徒は2～3名で同じキーワードを調査することになった。)

20のキーワードは次の通りである。

観光行政チーム	自然保護チーム	文化チーム	その他チーム
・オーバーツーリズム	・生物多様性	・教育(文化継承)	・人口減少
・世界遺産登録	・固有種生物と保護	・方言(島言葉)	・高齢化
・外来種対策	・海の環境保護	・食文化	・地形の成り立ち
・産業と雇用	・ロードキル	・大島紬	・奄美大島の歴史
・移住者促進	・マングローブ	・自然信仰	・奄美大島とハブ

生徒が読んできた書籍の内容と、キーワードの内容をなるべく関連付けられるように生徒を振り分けたつもりだが、生徒の読んできた書籍の内容にも偏りがあり、全員が春休みに読んできた書籍に近いキーワードの内容を調査する形にはできなかった。25名を4つのチームに分けたので、1チームは、6～7人になった。

それぞれのチームは、各自が振り分けられたキーワードについて調査をし、それをもとに動画を作成する課題に取り組むことにした。研修リーダーの生徒の中には、動画作成に不安を感じている者も一定数いたが、どのチームにも最低1名は動画作成が得意な生徒がいたようであり、生徒たちは各自のスキルを活かして、動画作成に関する役割分担をしていた。

### 第3回 2023年5月13日(土)「オンライン学習の準備、 キーワード動画作成①」

2022年度の先行実施でもお世話になった奄美テレビの福山亜希子様が、今回もオンライン事前学習に協力して下さることになり、その日程が2023年6月3日(土)に決まった。そこで、生徒たちに福山様の紹介をし、オンライン学習で福山様に質問したいことを考えてもらう時間を取った。その際、グループごとで振り分けられたキーワードに関する質問を中心に考えるように指示をした。その後は、動画作成について、グループに分かれて相談する時間とした。

#### 第4回 2023年5月20日(土)「キーワード動画作成②」

動画作成に向けての相談会を実施した。生徒たちは動画作成についてイメージが湧いていなかったようなので、59期生が保健の授業で動画作成をしていた際によく使っていたアプリの情報や、見やすいスライドの作り方を紹介した。生徒たちはchromebookやスマートフォンを用いて、googleスライドでそれぞれの発表スライドを作成したり、動画を作り始めたりした。また、2022年度の先行実施の時に作成された奄美大島研修の事前学習動画を生徒に見せた。また、6月24日の情報共有会についての話をし、当日の役割分担を紹介して、次の授業で情報共有会の時の役割を決める旨を伝えた。

#### 第5回 2023年5月27日(土)「オンライン学習の役割決め・ キーワード動画作成③」

前回の授業に引き続き、生徒はそれぞれ動画作成に取り組んだ。スマートフォンの動画作成アプリであるcapcutを使う生徒が多いように感じられた。また、6月3日に予定されているオンライン学習の司会を務める2名の生徒と事前打ち合わせを実施した。

#### 第6回 2023年6月3日(土)「オンライン学習(福山様)」

→大雨で中止

この週、大雨を伴う低気圧が日本を縦断した。奄美大島でも大雨が降り、報道関係者である福山様からも、「大雨の報道を優先せざるを得なくなった場合、オンライン学習がキャンセルになるかもしれない」との連絡をあらかじめ受けていた。

幸いにも奄美大島の大雨被害は大きくならず、福山様はご多忙の中でも時間を出して下さろうとしていたが、その後、東京でも大雨が降り、本校が休校措置を取らざるを得なくなった。そのため、オンライン学習はやむを得ず延期とした。福山様は急な日程の変更にも快く対応して下さり、6月10日(土)にオ

ンライン学習を実施することにした。

## 第7回 2023年6月10日(土)「第1回オンライン学習(福山様)を実施」

延期になっていたオンライン学習を実施した。開始直後、生徒たちは緊張した様子であったが、徐々に緊張もほぐれ、有意義な時間を過ごすことができた。福山様のパワフルなエピソードを聞いた生徒たちは興奮し、場の雰囲気はだんだんと良くなっていった。生徒たちは、奄美大島のことを身近に感じた様子であった。後半になると、積極的な生徒は自ら福山様に質問を投げかけていた。オンラインではあるが、現地の方と直接話せたことで、インターネットや書籍では得ることができない様々な情報を知ることができた。



第1回 オンライン学習の様子

生徒から事前に集めた質問リストを福山様に送っていたこともあり、オンライン学習はスムーズに進んだ。時間の関係上、すべての質問の回答をもらうことはできなかったが、福山様が後日、文書ですべての質問に回答して下さい、生徒たちは感激していた。

生徒たちが、福山様に優先的に質問したいと考えた事項は次の通りである。この当時、生徒たちはハブのことに興味を持ち、ハブを恐れていたようである。

- ・観光客の増加によって、環境や景観が変わっていると思いますが、具体的にどんなふうに変ったか、福山さんはそれをどのように思っているか教えていただきたい。
- ・奄美の自然を守るために奄美の人々が実践していることはありますか。
- ・自然と共生するために福山さんが意識していることは何ですか。
- ・ハブに気をつけるエリアや時間帯はありますか？ハブに遭遇したことはありますか。

## 第8回 2023年6月17日(土)「6月24日の情報共有会の準備、 キーワード動画作成④」

6月24日に予定されている情報共有会では、奄美大島研修リーダーの生徒25名がアカデミックプロジェクトコースの奄美大島コースの生徒51名に向けて、事前学習の内容を共有することになっていた。そのため、研修リーダーの生徒たちは奄美大島に関するクイズを作成し、奄美大島のことを分らない生徒も楽しく奄美大島のことを学べるように準備をした。情報共有会を生徒が運営するように計画することで、教員としての負担が少し増えてしまった感じもしたが、実際に情報共有会が終わってみると、生徒主体で実施できたことはとても良かったと感じている。

## 第9回 2023年6月24日(土)「情報共有会」

奄美大島研修リーダーの生徒たちが、4月から6月までに学習してきたことを動画にまとめ、発表した。観光行政、自然保護、文化、その他分野の4チームが作成した4本の動画を視聴した。また、研修リーダーの生徒が作ったクイズを実施した。

さらに、夏休みの宿題「個人探究実践」の説明をした。個人探究実践は、生徒が一人ずつワークシートに従って、奄美大島について興味を持つ課題を取り上げ、その課題について書籍、インターネットを用いる以外の方法で調査をす

るというものである。

個人探究実践の説明は教員が行わず、生徒が実施する形にした。個人探究実践を説明するための資料作成も、その説明も生徒が行ったが、スムーズにいったように思う。

奄美大島コースを選択した全生徒76名が顔を合わせるのはこれが初めてであり、生徒たちは若干緊張した様子であった。情報共有会を生徒が運営したこともあり、終始緊張感のある雰囲気で行進してしまった。生徒同士の机をくっつけてアイスブレイクの時間を取ってから情報共有会を始める等、工夫していればもう少し場の雰囲気が良くなったかもしれないと感じた。



情報共有会の様子(生徒が作成した4本の動画を視聴している)



### 夏休みの課題



奄美大島について各自で調査し、発表する。

- 01 各自が奄美大島について問いを立てる  
(探究シートを用いる→)
- 02 探究行動を伴う調べ学習をする  
課題…ネット検索のみの調査はダメ  
例) 身近な人にインタビュー  
奄美大島関連のお店や研究機関に訪問、インタビュー  
△相手に迷惑はかけない、危険などにはいかない
- 03 発表に使う資料を作成する
  - 発表方法  
動画、Googleスライド、レポートのいずれか  
文字だけでなく写真、図表、グラフを用いてわかりやすくまとめること
  - 発表に入れる内容  
自分が奄美大島について立てた問い  
上記の問いを立てた理由  
調査方法  
調査して分かったこと(これがメイン)  
まとめ、感想等
- 04 9月初回授業で1人3分発表する。



**〆切9/1(金)です**

夏休みの宿題  
個人探究実践の説明資料(生徒作成)

## 第10回 2023年7月1日(土)「夏休みの宿題(個人探究実践)の準備」

研修リーダーの生徒は先行して、夏休みの宿題・個人探究実践に取り組んだ。個人探究実践では、奄美大島の現状や奄美大島が抱える問題について、生徒たちが書籍やインターネット以外の方法で調査することを課した。生徒たちは個人探究実践についてイメージが湧きにくかったようである。奄美大島は他の4コース(沖縄、東北、韓国、マレーシア)に比べ、首都圏に奄美大島料理や特産品を扱うお店や食堂が少ない。そして、お店があったとしても居酒屋であったりして、高校生が入りづらいことが多かった。また、この時期は物産展などもあまり開催されておらず、現地について調査をするのが大変であったと思われる。

## 第11回 2023年9月2日(土)「夏休みの宿題・個人探究実践の発表会」

2学期からは、研修リーダープロジェクトの生徒25名に、アカデミックプロジェクトの生徒51名が合流し、奄美大島コースを選択した全76名が2つの教室に分かれて事前学習を進めた。この日は、夏休みの宿題である個人探究実践の発表、共有会を実施した。

## 第12回 2023年9月9日(土)「現地研修に向けてのグループ分けや、役割分担など」

この日は研修リーダーの25名の生徒のみで授業を実施した。まず、個人探究実践のテーマをもとに76人の生徒を4人ずつの班に振り分けた。班の振り分けは、研修リーダーの生徒のうち、希望者が担当した。研修リーダーの残りの生徒は、研修旅行のしおりづくりに向けてイメージを共有する時間をもった。2022年度の先行実施の際に作成した奄美大島研修のしおりを研修リーダーの生徒に見せ、しおりに書くべき項目として何が必要かを考えてもらった。また、研修リーダーの生徒のうち5名程度は、本校文化祭「緑苑祭」の探究発表の奄美大島コースの展示の装飾も担当した。緑苑祭では、ここまでの事前学習の内容を掲示して発表した。



本校文化祭(緑苑祭)での奄美大島コースの事前学習の展示発表

第13・14回 2023年9月30日(土)・2023年10月14日(土)

「奄美大島に関する問いやアクションプランについて考える①・②」

グループごとに、現地研修に向けて奄美大島に関する「問い」を立て、問いの調査に向けてのアクションプランを検討した。先行実施の際も、このプロセスでは非常に苦労が多かった。生徒たちの中には、インターネットや書籍で調べれば簡単に答えの出てきそうな問いを立てる者や、現地に行っても明らかに調査できないであろう問いを立てる者もあり、担当教員(垣塚、影山)で生徒と話し合いをしながら、問いやアクションプランを少しずつ修正していった。この時点でも研修旅行の行程が正式に決定しておらず、旅行の行程を生徒に伝達できていなかったため、生徒は現地の研修でどんな人と話ができるのか、どんな場所に行くのかをイメージできず、それによって問いを立てづらかったであろうと考えられる。行程を決定して生徒に伝えることができていれば、生徒も行程をイメージしつつ、自分たちが現地で調査できることが何なのかを考えやすかったであろうと思う。2024年度以降は行程をもう少し早いタイミングで確定させられるはずなので、これについては次回以降改善されるのではないかと感じている。

また、共に引率を担当する国語科教諭の大館から、「問いを立てる」ということを分かりやすく説明すると良いというアドバイスを受けた。具体的に、

「奄美大島はどういう問題を抱えているのか」とか、「奄美大島にある、解決しなければならぬ社会問題は何か」を考えることからスタートし、そういった問題をどのように解決すべきかを検討すると良いと教えてもらうことができ、生徒たちも問いの立て方について少しイメージが湧いたようである。

#### 第15回 2023年10月28日(土)「本校卒業生のお話を聞く会を実施」

本校国語科教諭である大館から、本校卒業生で現在は奄美大島と東京で二拠点生活をしている方がいらっしゃるという話を聞き、連絡を取った。奄美大島について話をするのを快諾して下さり、本校視聴覚室で奄美大島についてのお話を伺った。



本校卒業生から奄美大島についてのお話を伺っている様子

#### 第16回 2023年11月1日(水)「生徒たちでホテルの部屋割を決める」

第16回目の事前学習は、水曜日5時間目のLHRに実施した。内容的には事前学習とは言えないかもしれないが、研修旅行のホテルの部屋割をした。生徒に自由に決めさせる方式にしたが、問題なく決定することができた。

#### 第17・18・19回 2023年11月4日(土)・11月11日(土)・11月18日(土)

「奄美大島に関する問いやアクションプランについて考える③・④・⑤」

第14回目引き続き、問いやアクションプランについて考える時間とした。

また、研修旅行のしおり係の生徒は、しおり作成の役割分担をした。しおり作成のために、次のような役割を考えて、分担した。

- ・表紙の作成
- ・行程表の作成
- ・研修旅行の持ち物の作成
- ・訪問先の見どころ紹介の作成

第20・21回 2023年11月22日(水)・11月25日(土)

「奄美大島に関する問いやアクションプランについて考える⑥・⑦」

このあたりから、グループごとに進度に差が出てきた。問いのイメージが湧かずになかなか活動が進まないグループや、調査が進まずに悩んでいるグループもあった。また、時間を持て余しているように見えるグループも散見された。他の4コースではタクシー研修やB&Sプログラムが設置されているため、生徒たち自身がその行き先を考える時間が必要であるが、奄美大島研修は旅行の行程が固定されており、生徒が行程を自由に考えることがない。そのため、次回以降は他の4コースと異なった動きをした方が良さそうだと感じ、授業内容を再検討した。

第22回 2023年11月29日(水)「事前学習まとめスライドの作成」

グループごとに事前学習のまとめスライドを作成し、現地で奄美大島の方に分かりやすく発表できるように準備をする時間を作った。生徒たちはまとめスライドの作成に熱心に取り組んでおり、洗練されたスライドを作成していた。発表したい内容をスライドにまとめて発表するというプロセスは、多くの60期生が得意にしているようである。1年次から続けてきた探究活動の成果を感じることができた時間であった。

## 第23回 2023年12月2日(土)「事前学習まとめスライドの作成②

### および共有会

授業の前半30分で事前学習のまとめスライドを作成した。後半の20分は、作成したスライドを用いて、chromebookで他のグループにスライドの内容を説明する時間とした。2学期の期末試験前にも関わらず、生徒はみな熱心に取り組んでいた。振り返ってみると、この時間があつたお陰で、現地での意見交換会がスムーズに進んだのではないかと感じている。



作成したスライドを用いて、事前学習の内容を共有する様子

奄美大島と東京の違い、家の作り、スコールの調査	奄美大島の高齢化対策について、他の高齢化地域との比較をもとに方策を探る	オーバーツーリズム 長野県上高地との比較から方策を探る
奄美大島における動物と人間の共存について	奄美大島の学校事情の調査	アミノクロウサギのロードキル問題
奄美大島の方言（島口）の歴史の調査	鶏飯の歴史と文化の調査	奄美大島の食文化と歴史
マンガースの危険性や被害状況についての調査	オーバーツーリズムの解決のためにパワースポットが実施している対策の調査	奄美大島の地域活性化の研究、少子高齢化対策
鹿児島県の卵不足問題、鶏飯への影響に関する調査	マンガースが奄美大島の在来種に与えた影響の調査	マンガースの習性・奄美大島に与えた被害について
オーバーツーリズム 奄美大島の環境汚染	外来種が奄美大島の在来種に及ぼした悪影響の調査	奄美大島の固有種の現状、ロードキルについての調査
奄美大島の農家の衰退の解決策を探る		

表 各グループが事前学習で調査し、まとめたテーマの一覧（全19班）

#### 4. 現地研修について

2024年1月10日(水)から13日(土)にかけて、奄美大島で現地研修を実施した。以下がその研修内容の報告である。

##### 1日目 2024年1月10日(水) 「羽田空港から奄美大島へ」

1日目の行程は2022年度の事前学習から大きな変更はなく、想定していた形で進めることができた。羽田から約2時間のフライトで奄美空港に到着し、空港からバスであやまる岬に移動した。あやまる岬を自由に散策した後、奄美市笠利町にあるホテル「コーラルパームス」に到着した。



あやまる岬にて記念撮影

ホテルでは、現地の方々とお会いし、事前学習の成果を発表したり、現地の方のご意見を伺ったりする時間を持った。お忙しい中、協力してくださった方々は次の通りである。

- ・奄美テレビ 福山 亜希子様
- ・奄美テレビ 浜崎 亮平様
- ・現地の自然写真家 常田 守様
- ・奄美自然観察の森 観察指導員 川畑 力様

他に、瀬戸内町役場の皆様にも協力していただいた。

生徒は、2023年11月から12月にかけて事前学習のまとめをスライドで作成していたため、このスライドを用いて意見交換会に臨むことができた。

生徒全員がchromebookを持っているので、本来ならchromebook端末を用いて意見交換を実施したいと考えていた。しかし、chromebookを持っていくと生徒の旅行の荷物が多くなることや、故障の可能性があること、さらに現地ホテルにwi-fiがないことからchromebookの使用を断念した。結果的に、作成したスライドを印刷して現地に持って行き、紙での発表になった。現地の方々にあらかじめ生徒の事前学習のテーマを共有していたため、意見交換会がスムーズに実施できたと思う。



ホテルでの意見交換会の様子

夕食後に実施されたホテルでのミーティングでは、現地での1日目の行程を終えた感想や、2日目に向けての抱負を話し合った。

## 2日目 2024年1月11日(木) 「ゼログラビティ訪問 観光船せと乗船」

2日目は、74名の生徒が2つのグループに分かれて行動した。そのため、一方のグループの行程に沿って記述していくことにする。

朝からバスに乗り、瀬戸内町にある市民会館に向かった。ここでも現地の方々が時間を出してくださり、1日目と同様に10グループに分かれて、意見交換会をした。その後、障がい者も健常者もマリンスポーツを安全に楽しむことをコンセプトに作られた施設「ゼログラビティ 清水ヴィラ」を訪問した。ゼログラビティ 清水ヴィラは、今回の研修旅行の日程調整や現地の方々との連絡に

多大にご尽力くださった河本雄太様が代表を務める施設である。ここでは、バリアフリー施設の工夫についてはもちろんのこと、奄美大島の観光業の発展や自然環境保護について学ぶことができる。しかし、私が生徒に対して、ゼログラビティ訪問の目的をしっかりと伝えられなかったため、生徒は自分たちがどのような意図で訪問したのかということをごきちんとして理解しておらず、職員の方々に大変失礼なことをしてしまったのが反省点である。ゼログラビティでは、アウトドア用の車いすに乗ったり、施設内のさまざまなバリアフリーの工夫を見学したりした。職員の方の説明が興味深く、非常に丁寧であったため、生徒たちはみな熱心に耳を傾けていた。



ゼログラビティの見学の様子

ゼログラビティの見学後は、観光船「せと」に乗船するために瀬戸内町古仁屋に移動し、1時間ほど休憩をしながら昼食をとった。

休憩後、観光船「せと」に乗船した。「せと」ではサンゴや熱帯魚を観察することができた。生徒たちは透き通った海に感動し、スマホをもって写真や動画を撮影していた。奄美大島の自然の雄大さを肌で感じる時間になった。

夕方は奄美市街での街頭インタビューと、市街のスーパーをまわってお土産を買う時間になっていたが、現地の方の薦めもあり、急遽行程を変更した。街頭インタビューの場所を奄美市街から大島郡龍郷町にあるスーパー、「ビッグツー」に変更した。2022年度の先行実施のときは30名弱の生徒とともに奄美市街のスーパーを訪れても問題はなかったが、今回は昨年度の倍以上の70名

以上の生徒がおり、奄美市街のスーパーに迷惑をかけてしまうのではないかと  
いう懸念を現地の方が指摘してくださったためである。

ビッグツーは非常に大きなスーパーであり、70名以上の生徒が一気に訪れ  
てもキャパシティ的に問題がないこと、現地のお土産コーナーが非常に充実し  
ており、奄美大島の特産物は欲しいものが何でも手に入るということを聞き、  
行程の変更に踏み切った。

結果、ビッグツーでは多くの生徒が欲しいお土産を手に入れることができた。  
しかも5000円以上購入すると送料が無料になるサービスがあったため、残り2  
日の行程で荷物が増えてしまうことを考えて、お土産を東京に送っている生徒  
も多くみられた。



街頭インタビューを実施している生徒

一方で、多くの生徒が買い物に時間をかけすぎてしまい、現地の方に街頭イ  
ンタビューをする時間があまりなかったのが反省点である。

2日目の夕食は、ホテルでバーベキューを実施した。小雨が降っていたため、  
半数の生徒は屋内の食堂で食べ、残りの生徒が屋根のある屋外のスペースで食  
べる形での実施となった。少し寒さもあったが、おおむね好評だった。

3日目 2024年1月12日(金)

### 「黒潮の森マングローブパークでのカヌー体験・奄美自然の観察の森の散策」

3日も生徒を2つのグループに分け、別々の行程を消化した。筆者のグループは午前中に黒潮の森マングローブパークに向かった。この施設ではマングローブの成り立ちに関する動画を15分ほど視聴した後、マングローブの中をカヌーで進むプログラムを実施した。日常では体験できないアクティビティを経験でき、生徒の満足度は非常に高かった。

午後は、奄美自然観察の森に移動し、散策をしながら奄美大島固有の動物や植物の説明を聞いた。40人弱のグループに対して1名の職員が説明して下さったが、興味のある生徒は最初から最後まで職員の近くを歩き、すべての説明に熱心に耳を傾けていた。



奄美自然観察の森での様子

3日目は16時過ぎにホテルに戻ってくることができ、天候も良かったので、希望者を募り、ホテルから徒歩5分ほどの場所にある土盛海岸へ散策に向かった。ほぼ全員の生徒が散策に参加した。研修旅行の他の行程では、写真で見るとような奄美大島のきれいな海を間近で見られるチャンスがなかったので、奄美大島の美しい海を見た生徒たちはみんな興奮していた。写真や動画を撮ったり、海岸を走り回ったり、カニを見つけて捕まえたりと、それぞれがリラックスできる時間を過ごした。



土盛海岸での記念撮影

4日目 2024年1月13日(土)

### 「夢おりの郷訪問・鶏飯ひさくらにて昼食」

最終日の午前は研修参加者全員で夢おりの郷を訪問した。夢おりの郷では、奄美大島の伝統工芸である大島紬の工房を見学、体験できるプログラムと、トートバッグの泥染め体験を実施した。

大島紬工房の見学では、大島紬生産の現状、若手職人の育成の遅れや、伝統工芸の後継者不足についてなどを深く学ぶことができた。代表生徒は、大島紬の着付け体験もさせていただいた。着付け体験をやってみたくと名乗り出た生徒はいなかったのですが、指名した生徒に体験をしてもらったが、着付けをした生徒の姿を見て、他の生徒たちも羨ましそうにその様子を見ていたので、次回以降は着付け体験を多くの生徒にさせてあげたいと感じた。



大島紬の着付け体験をした生徒の様子

2022年度の先行実施では、奄美大島・大島紬村に行っていたので、今回も行程を変更するつもりはなかったが、キャパシティの問題で夢おりの郷に変更した経緯があったが、夢おりの郷は、職員の方の説明がユーモアに富んでいて退屈することがなく、楽しい時間を過ごすことができたので結果的には良かったと感じている。

昼食は、鶏飯ひさくらに向かい、奄美大島の伝統料理である鶏飯をいただいた。ひさくらは、先行実施でも好評だったが、今回も生徒は大満足だったようである。事前学習で鶏飯について調査していた班もあり、従業員の方とお話ができたら良かったが、有名店であり、お昼時で混雑していたこともあり、そういったプログラムを実施することはできなかった。

2022年度の先行実施では、奄美大島のスクールに降られてずぶぬれになったので、今回も天気の変化には注意していたが、今回は冬季での実施だったこともあり、4日間の行程でスクールに降られることは一度もなかった。また、現地は思っていたよりも寒く、シャツの上に羽織るものが必要なくらいであった。

感染症の罹患者や体調不良者が出ることも心配だったが、そういった生徒は一人も出なかった。しかし、インフルエンザの感染者が出た他のコースの動きを考えると、各コースに看護師の方が同行してくださるのは非常にありがたいことだと感じた。

また、研修の行程を通じて研修リーダーにもっと働いてもらうべきだったと感じている。点呼や取材対応など、もっと研修リーダーに頼りたかったが、うまく仕事を振り分けられなかった。

## 5. 現地研修を終えて 事後学習

本校は3学期の土曜日授業回数が少なく(4回)、事後学習を丁寧に進めることができなかったのが反省点である。生徒たちは1月27日(土)、2月14日(水)の2回で研修旅行の振り返りと報告スライドを作成した。作成したスライドをもとにして、2月17日(土)には奄美大島コースの他の生徒に向けた発表を実施

した。2月24日(土)には他の研修旅行コースの生徒に向けての発表会を実施した。3月2日(土)には、学年全体で集まり、各コースの優秀発表者が学年全体の前で発表を実施した。

アクションプランを検討しているグループもあったが、外部のコンテストに応募するような生徒は出なかった。時間がなかったとはいえ、うまく指導できなかったのは反省点である。

## 6. 本研修を通じての生徒の感想

研修を終えての生徒の感想を一部ではあるが、以下に記す。

- ・観光船せとに乗ったことが一番楽しかったです。海底をゆっくり見られることはとても楽しい経験で、ほかでは体験できないことでした。特にサンゴ礁を見られたことはとても印象深かったです。
- ・観光船せとが楽しかった。船に乗りながら水中の様子を見ることができるのがとても新鮮で、きれいな奄美の海を楽しめた。天気もよくとても気持ちよかったです。
- ・マングローブのカヌー体験が印象に残った。今まで体験したことがないものだし、自然に触れるプログラムの中でも一番迫力があって楽しかった。
- ・意見交換会はとても有意義だった。実際に島の人の意見を耳にして、調べても出てこないことや、島の人を感じていることを知ることができた。島の人の温かさをとても感じられてよかった。
- ・ゼログラビティ訪問がとても良いプログラムだった。障がいを持つ方に寄り添った取り組みで、細部まで考えられていることに感動したし、いろいろと考えさせられた。
- ・奄美自然観察の森の散策・観察が一番学びになったと思います。奄美特有の植物を見ることができ、楽しみながら奄美の自然について学べたと感じました。

## 7. 研修を実施して分かったことや反省

今回の研修を通して筆者が感じたことを記す。

奄美大島コースは2022年度の先行実施があったため、行程はイメージしやすかった。しかし、今回は76名の生徒がおり、先行実施（生徒29名）の2倍以上の規模だったので、移動や施設の利用に気を遣った。一緒に引率を担当した谷内田先生、垣塚先生、大館先生にかなり助けていただきながら、何とか無事に全行程を終了させることができた。

2024年度の実施に向けて、冬の奄美大島の魅力を発信するプロジェクトを考えると、ナイトツアーへの参加など、新たな取り組みのアイデアも出てきており、本研修の今後の発展が楽しみである。1月の実施ということもあり、事後学習に時間をかけることができなかったのは残念であるが、奄美大島に興味を持った生徒が来年度に論文等の授業を通して、さらに探究活動を進めてくれることを期待したい。

（影山 彰）